

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇タイの塩ビリサイクル

■ [随想](#)

◇レソト王国旅行記（10）－学校－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇タイの塩ビリサイクル

廃棄物問題への対応、資源の有効活用は急速に発展を遂げている途上国においても重要性を増しています。まだ、先進国のような廃棄物処理の法制が十分には整っていない中でも、リサイクルを生業とする企業が育ってきています。驚くほど細かな分別作業を手作業で行い、再生材を使用した製品を近隣の国々へ輸出している企業も出てきています。

888 LION COMPANY LIMITED:

同社は、主として塩ビケーブルのリサイクルを行っています。タイ国内から電線ストリップ済みのケーブル外皮（PVC）を回収し、再生材としてのペレットを製造し販売しています。業績は好調で、需要に応えきれない状況が続いているとのことで、作業の効率改善と作業環境の改善のために積極的に設備投資を行っています。同社には、押し出し機による再生ペレット製造ラインが4ラインありましたが、これらのラインが2交代24時間稼働しているとのことでしたが、現場は人件費が安いとのことで、外国人労働者を多く受け入れていました。

受け入れたPVCケーブル廃材は、細かく色分けされたのちは、洗浄され、水による比重分離ののち裁断し均質に溶解してペレットを製造しています。タイの電線ケーブルの外皮材質には規格があるため、樹脂の品質（可塑剤や鉛の量）は一定レベルに収まっているとのことでした。面白いことに、不純物の金属（銅）は、それを見つけた従業員が自分のものとしてよいとのルールになっています。従業員にとっては、PVC樹脂よりも高い値段で捌くことができる銅を自分のものとするので、モチベーションが上がり品質も向上すると一石二鳥だそうです。

また、再生材を使ってガラス窓用のガスケット（窓ガラスのシール部分）を製造する小さな押し出し機のラインが1台ありました。こちらはミャンマーなどで旺盛な需要があるとのことでした。



色分別前の回収廃ケーブル



色分別後の廃ケーブル



製造ラインの様子

まだ40歳台の社長は、大手情報技術企業を辞めて同社を立ち上げたそうで、昔のネットワークも利用し世界中から多くの問い合わせを受けており、今後ともビジネスを拡大させてゆく意欲が旺盛でした。



窓枠用ガasket製品

ACHAROENSUB RECYCLE CO., LTD :

同社は、ホース、ケーブル、床材、長靴、パイプ、プロファイルなど、塩ビ製品全般を扱う中間処理業者です。雑多な廃材を回収し、それらをすべて手作業で分別したあと、洗浄、乾燥、裁断を経て再生材を製造しています。従業員はすべてタイ人で、寄宿舎を整えておりフレックス制の歩合で仕事ができるようになっていることが従業員のインセンティブとなっています。現在、従業員は100名、リサイクル量1,000t/月とのことです。処理量は日本の比較的大きな中間処理業者に匹敵するものです。

この工場で印象に残ったのは、水色の塩ビパイプの廃材です。日本人にとってはグレーの塩ビパイプが一般的なイメージですが、タイでは水色の塩ビパイプは飲料水用だとのことです。黄色や白が建材用の電線カバー用パイプなど、グレーは農業用の排水パイプだそうなので、廃材の色を見ればその用途・素材の質が分かる仕組みになっています。

廃材は、広くタイ国内から収集され、分別・洗浄された再生材はタイ国内および、バングラデシュ・ラオスなどに輸出されているそうです。同社は、廃材・ごみのリサイクル推進のためタイ政府或いはAEC（アセアン経済共同体）とも共同して活動しているとのことです。



廃プロファイル類



廃硬質塩ビパイプ



廃長靴

今回見学させていただいた二つのリサイクル会社は、一社は積極的な投資による近代化を進め、もう一社は福利厚生を充実させたうえで労働力に頼ると異なるタイプの会社でした。リサイクルも各国の経済・社会構造、社会状況によりその形態を変えるものだと思います。

■ 随想

◇レソト王国旅行記（10）－学校－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

レソト、もともとは「ソト語を話す人たち」という意味ですが、イギリス連邦に所属しているため、ソト語だけでなく、英語も公用語となっています。

レソト人、普段はソト語で会話をしていますが、よく聞いていると英語の単語もかなり交じっています。こちらの人に聞いてみましたが、普段から2つの言語を使っているため、知らず知らずのうちに、ごちゃ混ぜになってしまうのだとか。

そういえば、ハワイの日系人の人たちも「うちのドーターが、エグザムに受かり、こんどユニバーシティにエンロールすることになりました」など、日本語と英語をミックスして話しています。

レソト王国の教育は小学校・中学校、合わせて 11 年。日本より就学年数が多いのですが、説明を聞いてもなぜだかよく分かりません。そもそも、小学校の入学年齢もバラバラ。「私は 6 歳で入学」という人もいれば「私は 8 歳で入学」という人もいます。小学校も「6 年で卒業した」人もいれば「4 年で卒業した」という人も。小学校から落第や飛び級があるのでしょうか？ 家の経済的な問題が関係しているのかもしれませんが。

少し古い 2000 年に実施された調査によると、5 歳から 14 歳までの子どもの、約 23%、103,020 人が既に働いているということです。

私立学校も有名私立学校から、キリスト教系の学校まで、いくつかあるそうですが、何れも、お嬢様、お坊ちゃん学校。学費が高く、普通の人の子どもを入学させることはかなり難しいそうです。

公式カリキュラムによると、全ての学校でソト語と英語を教えており、小学 5 年生以降の授業は英語で行われることになっているため、ほとんどの人に英語が通じます。しかし、女子を中心に、進学率が高いとはいえ、レソト政府は「2015 年までに中等教育の総就学率を 85%に向上させる」という目標を立て、様々なプロジェクトを推進しています。このプロジェクトでは、日本の ODA も高い貢献をしており、就学率の増加に伴い必要となる、学校建設を行い、既に 12 校を完成、引き渡しています。

中等教育の就学率でさえこのような状況ですから、高等教育への進学率はかなり低くなります。レソト政府では少しでも高等教育を普及させようと、地方でも高校の建設を行っていますが、そもそも進学を希望する生徒がほとんどおらず、校舎ができたものの、生徒が集まらず、一度も開校をしたことがない、或は、開校したものの、新入生がほとんどなく休校した高校がいくつも見られます。



生徒が集まらず休校中の高校です。
立派な校舎なのですが。。

大学はレソト王国国内には 1 校あるだけ。Roma（ローマではなく、ロマと読みます。ローマカトリック教会がキリスト教布教のための本拠地にしたことから来た地名で、大きな教会や関連施設も多数あります）という街にレソト国立大学があります。

Roma の街は典型的な学生都市。大学キャンパスと、生徒が住む学生寮でぎっしり。街からちょっと離れたところにはローマカトリック教会や修道院、教会が運営する様々な施設があります。

しかし、映画館やバーなど遊ぶ場所は全く見当たりません。レソト国立大学に入学するのはレソトの学生の中でもエリート中のエリート。将来は政府や軍の幹部候補です。遊んでいる暇はないということでしょうか。

街を歩く学生、ほぼ全員がノートパソコンを抱えています。もちろん、スマートフォンも必需品。

総合大学なので、看護学部はありますが、残念ながら医学部はないとのこと。医者になりたい学生は、ほとんどが、南アフリカ共和国にある大学の医学部に入学するそうです。

(続く)

次回は、(11)ーリゾート王国あれこれ(その1)ーです。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

バンコクの幹線道路わきの電線の様子。数十年前の東京もこんな感じだったのでしょうか？太い電線があまりなくて、細い電線がたくさんありました。どれが何の電線か、わかるのでしょうか？気が付いて見上げてみると、とても興味深い光景でした。

それにしても、日本食レストラン・飲み屋さんの多い都市でした。(JINJIN)



■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp